

都市再生整備計画(第1回変更)

たけおししんぶんかこうりゅうきょてん
武雄市新文化交流拠点地区

佐賀県 たけお武雄市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	佐賀県	市町村名	たけふ 武雄市	地区名	たけおししんぶんかごりほつぎよてんちく 武雄市新文化交流拠点地区	面積	125.6	ha							
計画期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度	交付期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度

<p>目標</p> <p>大目標:周辺拠点エリアを繋ぎ、にぎわいと交流のあるまちづくりを推進</p> <p>目標1:文化・アートをきっかけに人々が交流しあい、にぎわいが生まれる新文化交流拠点エリアを整備する。</p> <p>目標2:新文化交流拠点エリアから周辺地域へ連携・回遊性を高め、面としての賑わいを創出し、まちの魅力向上につなげる。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含み、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>本市は、佐賀県の西部にある温泉都市で、平成18年3月1日に旧武雄市・山内町・北方町の1市2町が合併して誕生したまちである。北方IC、武雄南ICより長崎自動車道を利用することで福岡や長崎へのアクセスも良好であるほか新幹線を利用すれば長崎まで23分で移動可能であることなど西九州における交通の要所となっている。現在人口約4.7万だが、人口減少や少子高齢化が進んでいる。そんな中持続的に成長できる都市構造への転換を図るため、新たに市内外の人々の交流を生み出し、まちに新たなにぎわいを創出していく拠点が必要であると考え。</p> <p>現在武雄市では文化のまちづくり構想において「文化」をテーマにした新たなまちづくりに着手している。その中で新文化交流拠点を、新たな文化・アートが生まれ人々が交流し賑わう施設として新たに整備していくことで、新たなまちのにぎわいづくりを目指す方針を示している。構想内では新文化交流拠点に留まらず、周辺やその先まで文化・アートを発信し賑わいを創出していくことが重要としている。</p> <p>このたび、武雄の玄関口である武雄温泉駅から新たに整備する新文化交流拠点と近隣施設の回遊性向上を目指し、面としての魅力化を図り、文化・アートをきっかけとした市内外の交流人口を増やすことで更なるまちの賑わい創出につなげたい。</p>

<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和43年度:武雄駅南部地区土地区画整理事業(24ha)都市計画決定 ・昭和50年度:武雄駅南部地区土地区画整理事業 換地処分 ・昭和50年3月:武雄市文化会館 開館 ・昭和55年度:富岡地区土地区画整理事業(57.1ha)都市計画決定 ・平成7年度:富岡地区土地区画整理事業 換地処分 ・平成9年度:高架事業、武雄北部地区土地区画整理事業(9ha)都市計画決定 ・平成10年度:「武雄中心市街地活性化計画」策定 ・平成16年度:「武雄温泉駅周辺地区都市再生整備計画」策定 ・平成17年度:1市2町 新設合併(新「武雄市」誕生) 「武雄温泉駅周辺地区都市再生整備計画」第1期計画開始(事業期間:H17～H21) →川端遊歩道、中央公園、観光交流センター等を整備 ・平成21年度:高架完成 都市計画道路中野御船山線整備開始 ・平成22年度:「武雄温泉駅周辺都市再生整備計画」第2期計画開始(事業期間:H22～H26)→白岩運動公園公衆トイレ(バリアフリー対応)、丸山公園園路等を整備 新幹線事業に対応するため、武雄北部土地区画整理事業工区分け後、1工区換地処分 ・平成24年度:都市計画道路永松川良線(Ⅰ期)整備開始 ・平成25年度:都市計画道路天神崎白岩線(駅前広場含む)整備開始 武雄市図書館リニューアルオープン ・平成29年度:武雄市こども図書館オープン ・平成30年度:都市計画道路永松川良線(Ⅰ期)整備完了 ・令和1年度:武雄北部土地区画整理事業 2工区換地処分 ・令和2年度:武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 ・令和3年度:都市計画マスタープラン策定 ・令和3年度:武雄市文化のまちづくり構想策定 ・令和4年度:西九州新幹線開業 ・令和4年度:武雄市立地適正化計画策定 ・令和4年度:武雄市新文化交流施設エリア整備基本計画策定 <p>【現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地から郊外への人口流出を防ぐため、拠点内の魅力向上やにぎわいの創出を目指している。 ・令和4年9月の九州新幹線西九州ルート暫定開業に向けて駅周辺の整備を行ったことで、にぎわいが創出されている。 ・武雄市文化会館周辺に位置している武雄市図書館・歴史資料館は年間100万人近い来館者となっている。
--

<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺のにぎわいが周辺拠点へ波及されておらず、拠点間の回遊性も創出されていない。 ・中心市街地に点在する地域資源、駅や武雄市図書館・歴史資料館などの主要拠点を関連させた一体的な有効活用がされていない。 ・令和4年3月「武雄市文化のまちづくり構想」を策定し、文化と様々な分野との融合や、西九州のハブ都市としての利便性を活かした交流人口の増加など、文化を活かしたまちづくりによる魅力向上とにぎわいの創出が必要となっている。

将来ビジョン(中長期)

【武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年度～令和6年度)】

人と人との交流が生まれ、心がつながるまちをつくるとして、以下の基本的方向を定めている。

- ①九州新幹線西九州ルートの新幹線開業を契機に、佐賀と長崎をつなぐ拠点都市として、新たな人の流れと交流の創出を図る。
- ②観光、文化、スポーツ等の分野について、連携した取り組みを推進するとともに、一つの自治体の枠にとらわれず、地域間や経済圏など広域での連携・協働を推進する。
- ③住んでいる人が武雄の魅力を知り、誇りをもつこと、そして、地域と継続的に多様な形で関わる地域のファンやリピーター等「関係人口」の創出・拡大を図ることが必要である。
- ④国や地域、個人で異なる嗜好を踏まえ、日常の中にある資源や武雄の強みを効果的に「情報発信」することにより、認知度を向上させる取り組みを推進する。
- ⑤文化スポーツの振興として、市民に文化芸術に親しむ機会を広く提供し、文化活動の実施を支援する。

【武雄市都市計画マスタープラン(令和3年度～令和23年度)】

まちづくりの基本方針 1-1「広域的な交流拠点にふさわしい個性を生かした魅力あるまち」「自然・歴史・文化およびスポーツを交流と活力向上に生かせるまちづくり」として武雄市文化会館、図書館・歴史資料館を中心とした文化拠点の充実と周辺エリアとの回遊性の向上を目標としている。

【武雄市立地適正化計画(令和5年～令和24年)】

まちづくりの基本方針として誰もが安心して住み続けられ、未来につながる交流拠点都市を目標として定めている。

計画内で多様な都市機能が集積した中心拠点(武雄区域)において誘導区域を定めており、そこに位置する教育・文化機能を担う誘導施設として、文化交流施設を設定している。

【武雄市文化のまちづくり構想(令和3年度～令和12年度)】

基本理念「もっと開かれた もっと関われる もっとつながれる 文化が生きるまち」を実現するための拠点となる文化交流施設を整備していくとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の都市構造の実現を目指すにあたり、武雄市都市計画マスタープランにおける「中心拠点(武雄区域)」、「高次地域拠点(山内区域、北方区域)」において誘導区域等を設定し「多様な都市機能が集積した中心拠点、生活利便性を確保した地域拠点の形成」を図ることとしている。

武雄市立地適正化計画において都市機能誘導区域として中心拠点(武雄区域)を設定し、医療・福祉・商業施設などの都市機能を集約することで、各種サービスの効率的提供を目指している。

この区域には武雄温泉駅、市役所、武雄市図書館・歴史資料館、新体育館など多くの公共施設や商業施設等の都市機能が集積しているが、今後も必要な機能の都市機能誘導区域外への転出・流出を防ぐ目的の生活利便施設として誘導施設を設定しており、教育・文化機能を担う誘導施設として文化交流施設の整備を予定している。

○中心拠点(武雄区域)においては西九州新幹線開業の機会を生かした計画的な拠点形成として都市機能強化、居住密度向上を目指している。

○高次地域拠点(山内区域、北方区域)においては人口減少下においても一定の人口密度や生活利便性の確保・維持を目指している。

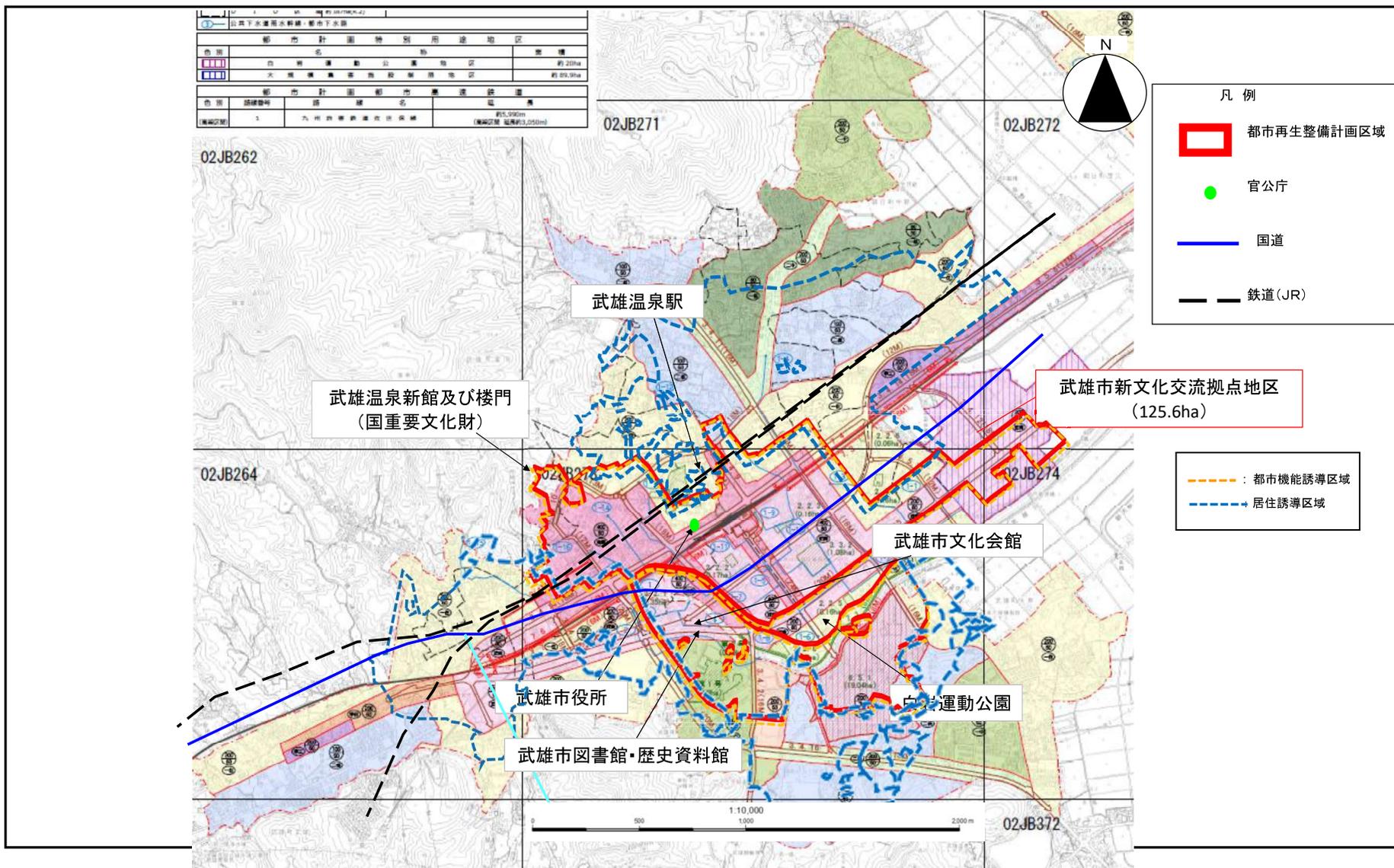
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
市民の文化活動への参加度	%	文化活動へ参加している人の割合	文化をきっかけに人々が交流しあい、にぎわいが生まれる街を目指す。	一般37.3% 中高生26.9%	R3年度	各50%	R10年度
主要交流施設の交流人口	万人/年	主要交流施設の利用者数(①武雄温泉駅乗車人数②武雄市図書館・こども図書館来場者数③新文化交流施設利用者数)	新文化交流施設から周辺各施設へ連携・回遊性を高め、面としての賑わいを創出し、まちの魅力向上につなげる。	①45万人/年 ②82万人/年 ③30万人/年	①R3年度 ②③R4年度	計165万人/年	R10年度
地区内のイベント数	回/年	地区で実施されるイベントの数	イベントを開催し、周辺施設との回遊性を向上させることで、にぎわいが生まれるまちを目指す。	31回/年	R4年度	45回/年	R10年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針①新文化交流拠点エリアの整備 令和3年に策定した「武雄市文化のまちづくり構想」に記載している基本理念「もっと開かれた もっと関わられる もっとつながれる 文化が生きるまち」を実現する、文化・アートをきっかけに人々が交流しあい、にぎわいが生まれる交流拠点として整備する。 令和4年に策定した「武雄市新文化交流施設エリア整備基本計画」内に掲げる施設エリアコンセプト「Cultural Fusion 次世代の武雄を創造する文化”融合”施設エリア」として既存の文化と新しい文化が融合し次世代を描く場、枠にとられない文化を創造する場、それぞれの居場所で新たなつながりを創造する広場としての整備を行う。 また近隣施設との連携を強化し、施設間の導線や環境の整備を行い、回遊性を高め、新文化交流施設だけでなく周辺施設も含めたにぎわいのあるエリアを目指していく。</p> <p>○新文化交流拠点(地域交流センター)の概要としては以下機能を含む施設を整備する。 ・多目的ホール(文化活動発表、ギャラリー使用、各種アート展示などで使用。屋内外を繋げた使用を想定。) ・大・中会議室(ギャラリーを兼ねた使用可能) ・陶芸や絵画など様々な創作活動に利用できる創作室(別棟) ・オープンキッチン ○様々な創作活動にも利用できる創作室周辺の広場及び屋外空間を活用したアートパーク(鍋島庭園を活用した遊べる庭園)の整備を行う。 ○近隣施設である図書館・歴史資料館との連携強化のため、連絡路である黒門周辺(迎田緑地内園路)整備や周辺道路整備を実施。</p>	<p>【基幹事業】市道四十九重線整備(道路) 【基幹事業】迎田緑地整備(公園) 【基幹事業】新文化交流拠点駐車場整備(地域生活基盤施設/駐車場) 【基幹事業】新文化交流拠点情報板整備(地域生活基盤施設/情報板) 【基幹事業】新文化交流拠点駐輪場整備(地域生活基盤施設/駐輪場) 【基幹事業】塚崎の大楠周辺整備(地域生活基盤施設/広場) 【基幹事業】新文化交流拠点整備(高次都市施設/地域交流センター) 【基幹事業】創作室周辺広場整備(地域生活基盤施設/広場)</p>
<p>整備方針②文化・アートによるまちの魅力向上</p> <p>○文化のまちづくり構想を実現する事業イベントを実施し、文化・アートに気軽に触れることで市民の興味関心を高めるだけでなく、文化・アートをまちの魅力として対外的に発信していく。 ○整備計画で取り組む文化・アートによる新たなまちづくりについての検証を行う。</p>	<p>【基幹事業】新文化交流拠点整備(高次都市施設/地域交流センター) 【提案事業】事業効果検証調査 【提案事業】まちづくり関連イベント実施</p>
その他	
<p>【住民参加】 ○新しい文化施設エリアを考える市民ワークショップを実施した。(官民連携によるまちづくりの検討) 公募にて募った市民メンバーが、現文化会館の課題や利点を明確にし、新文化交流拠点として必要な機能等の検討を行った。 武雄市文化のまちづくり構想の基本理念を実現する施設を目標に、文化が身近になり、文化で人々が交流し、文化でまちが賑わう施設として更なる魅力向上に努めていく。</p> <p>○新たな武雄公民館を考える町民ワークショップを実施した。 ・現文化会館に内包している公民館について、新文化交流拠点の整備と共に検討が必要となる武雄公民館の今後のあり方について検討を行った。 10代～70代までの武雄町民が参加し、公民館として必要な機能や、役割、活用のアイデアなどについて議論し、公民館の活用促進を目指している。</p> <p>○令和5年度に実施する管理運営計画の策定過程でも市民参画の方法について検討している。</p> <p>【官民連携によるまちづくり】 ○令和4年度より佐賀大学芸術地域デザイン学部と協定を結んでいる。文化によるまちのにぎわい創出事業として、武雄温泉駅前広場や市役所ホール、温泉通りなどにおいてアートイベント等を開催している。</p> <p>○武雄高校と連携し、高校生によるまちづくり参画事業を行っている。高校生自身がまちづくりに関するテーマを設定し、取材、アンケート、イベント実施などを通じてまちづくりに参画している。</p> <p>○学校法人旭学園による男女共学、4年制大学の新設を予定しているため、連携したまちづくりを検討していく。</p> <p>【計画の管理について】 関係部署等と連携し、円滑な事業推進を図る。 また広報誌及びFacebook、ホームページ等で計画の進捗状況を適宜報告する。</p>	

武雄市新文化交流拠点地区(佐賀県武雄市)

面積 125.6 ha 区域 武雄町大字武雄、武雄町大字昭和、武雄町大字富岡の一部



武雄市新文化交流拠点地区(佐賀県武雄市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 周辺拠点エリアを繋ぎ、にぎわいと交流のあるまちづくりを推進 目標1: 文化・アートをきっかけに人々が交流しあい、にぎわいが生まれる新文化交流拠点エリアを整備する。 目標2: 新文化交流拠点エリアから周辺地域へ連携・回遊性を高め、面としての賑わいを創出し、まちの魅力向上につなげる。	代表的な指標	市民の文化活動への参加(%)	一般37.3% (R3年度) → 各50% (R10年度) 中高生26.9%
			主要交流施設の交流人口(万人/年)	157万人/年 (R4年度) → 165万人/年 (R10年度)
			地区内のイベント数(回/年)	31回/年 (R4年度) → 45回/年 (R10年度)

